

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 12 月 8 日

【評価実施概要】

事業所番号	3670101447
法人名	医療法人 清和会
事業所名	グループホーム かがやき
所在地	徳島県徳島市上八万町中山83番地の1 (電話) 088-668-1060

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 20 年 12 月 3 日

【情報提供票より】(平成 20 年 11 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 19 日
ユニット数	3 ユニット
職員数	21 人
利用定員数計	27 人
	常勤:18人、非常勤:3人、常勤換算:ユニット1 6.5人 ユニット2 6.5人 ユニット3 6.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	4 階建ての	1 階 ~	3 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000 円	その他の経費(月額)	その他実費	
敷金	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	380 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,380 円	

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 11 月 1 日現在)

利用者人数	27 名	男性	13 名	女性	14 名
要介護1	6 名	要介護2	13 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79 歳	最低	57 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	協立病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は自然豊かな環境の中にあり、利用者は四季折々の風景を眺めながら穏やかに過ごしている。周辺の民家から離れた場所に位置しているため、毎日の散歩や買い物などの外出支援を通じた地域との交流に努めている。運営者は常に職員の資質向上に熱意を持っており、気軽に意見交換ができる関係を築きサービスの質の向上に繋げている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
		前回評価での改善課題について運営者及び全職員で話し合い、運営推進会議においても検討している。「地域との付き合い」、「運営推進会議を活かした取り組み」、「市町村との連携」、「家族等への報告」、「職員を育てる取り組み」は全て改善されている。
		今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
		運営者や管理者、職員は評価の意義や目的をよく理解し、全職員で自己評価を行うなどサービスの質の向上に向けた取り組みを行っている。
重点項目	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
		運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、地域包括支援センター職員、民生委員、地域ボランティア、管理者、職員で構成されている。会議では利用者の状況や行事予定を報告したり、参加メンバーからの質問や家族の希望・要望について話し合うなどして事業所の運営やサービスの質の向上に活かされている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
		玄関に意見箱を設置したり、運営推進会議や面会時に言葉かけするなどして気軽に意見などを出してもらえるよう働きかけている。出された要望等については、随時検討してサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
		利用者と職員は公民館の文化祭や近隣小学校の運動会などに参加している。地域からは折り紙や民謡、歌謡ショーのボランティアなどが来訪し、交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域住民として交流を大切にし、楽しみのある生活を支援するという事業所独自の理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は理念やケア方針を常に職員と話し合っ共有し、日々のサービス現場に反映するなど、実践的な取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館の文化祭や小学校の運動会などに参加して交流を図っている。折り紙や民謡、三味線、フラダンス、歌謡ショーのボランティアなどの来訪も多い。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者、職員は評価の意義や目的をよく理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。また外部評価結果は全職員が把握し、具体的改善策の検討や実践により、サービスの質の向上に活かされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、地域包括支援センター職員、民生委員、地域ボランティア、管理者、職員で構成されている。会議では利用者の状況や行事予定を報告したり、参加メンバーからの質問や家族の希望・要望について話し合うなどして事業所の運営やサービスの質の向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に制度の問い合わせや運営の相談をしたり、消防署と協力して防災訓練や勉強会を開催するなどの連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、利用者の暮らしぶりや健康状態を写真やメッセージによって家族に伝え、面会時にも報告している。金銭出納簿は家族の来訪時に見てもらい、確認印・サインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、運営推進会議や面会時に言葉かけするなど、気軽に意見などを出してもらえよう働きかけている。出された要望等については、随時検討してサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3ユニット間で年3回程度異動を行ってその都度信頼関係を築き、2名配置の夜間や離職した際などに、馴染みの職員による支援を受けられるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の資質向上に熱意を持ち、研修会の案内を掲示して各自の経験に応じた受講を勧めている。研修報告書は全職員に回覧して確認印・サインをもらい、情報を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者との交流や連携の必要性をよく認識している。職員はグループホーム協会徳島県支部が開催する勉強会に参加して情報交換や交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に短期利用型共同生活介護を利用してもらったり、家族と見学してもらったりしている。職員は利用者の希望や不安、家族の要望等の把握に努め、安心して事業所での生活に馴染んでもらえるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として敬う態度で接し、料理を教えてもらったり、日常の中で喜怒哀楽を共感するなどして共に過ごし支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常の会話や表情などから利用者の希望や思いを把握するよう努めている。意思疎通が困難な場合は家族や関係者等からも情報を得て利用者本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の思いや家族の要望等を介護計画に反映している。職員は関係者間でカンファレンスやアセスメントの段階から意見交換し、計画内容に活かしている。計画書には利用者・家族の確認印・サインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的及び利用者の状態の変化に応じて随時、見直して現状に即したものとなっている。見直しの際は利用者や家族など必要な関係者と話し合われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、利用者や家族の状況や要望に応じて通院介助など柔軟に支援している。また短期利用型共同生活介護も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。また協力医療機関と連携し、利用者の健康管理や相談、適切な医療が受けられるよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時に利用者や家族、医師、職員など必要な関係者間で話し合っ方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のプライバシーを尊重し、排泄介助などには言葉遣いに注意し、穏やかで優しい対応を行っている。個人情報は利用目的を定めて文書化し、厳重な取り扱いが職員に徹底されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や入浴のタイミングなどは利用者一人ひとりの体調や気持ち、ペースを尊重して希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けなど、職員は利用者のできる事を支えながら出番や役割づくりに努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にそった入浴を支援している。入浴を嫌がる利用者には、無理強いせずこまめに言葉かけを行い、職員も同行するなど安心して入浴できるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手芸や折り紙、習字、カラオケなど利用者一人ひとりの得意なことや楽しみ事を把握し、本人の希望に配慮した気晴らしを支援している。また掃除や洗濯など利用者の力量に応じた無理のない役割を担ってもらい、本人の自信に繋げている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望と体調によって、事業所周辺の散歩には毎日のように出かけている。また、月に1度は市内の大型量販店に買い物に出かけるほか、季節毎に花見や菊人形展、外食など積極的に外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者や管理者、職員は鍵をかけないケアの重要性を認識している。しかし1階と3階ユニットは、利用者の安全のため施錠している。	○	利用者の安全を考慮しながら、1階と3階のユニットにおいても鍵をかけないケアの実践に向けて取り組まれない。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成している。また年2回、市消防署の協力を得て利用者とともに避難訓練を行っている。運営推進会議では地域住民に災害時の支援や協力を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が立てた献立表を参考にして栄養バランスに配慮し、また利用者の嗜好にそった柔軟な支援を行っている。食事・水分摂取量は毎日記録し、職員間で情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には台所や食堂、ソファのある居間、畳の間がワンルーム形式に配置され、家庭的で落ち着いた雰囲気がある。壁には利用者による手作りの作品や行事の写真などが飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れたテレビや家族の写真、仏壇などを持ち込み、居心地よく安心して生活できるよう支援されている。		